

平成22年度 学校関係者評価表(結果)

学校番号	学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校	記載者	森竹健治
------	--------------------	-----	------

学校教育目標	将来のScienceとSocietyを牽引できる存在感と思慮深さを持った人材の育成	【総合評価】 「学校教育目標」、「教育方針」の内容を、開校1年目なりに具現化させ、礎を構築した年度であった。入学した生徒に、本校の特色ある教育に積極的に取り組ませることで、期待する教育成果を得ることができた1年であったと判断する。また、その成果を学校説明会等で積極的に外部に発信した結果、2年目で学則定員を充足できたことも評価される。		
教育方針	将来、科学技術に夢と希望をもち、創造性豊かな人材育成の基礎をつくる			
今年度の重点目標		評価	成果と課題	次年度の取組
1 中学校教育プログラムを充実する		4	次年度に繋げるためのプログラムは構築できたが、まだまだ整備・改善・導入が必要なプログラムがある。	生徒会活動、本校ならではの伝統行事など、中学校ならではの教育プログラムや行事を整備する。
2 新学習指導要領を導入する		4	開校前年、前々年から説明会への参加、校内研修を開催してあったので、比較的導入は円滑であった。	新学習指導要領で示されている新たな指導の方向性を各教科において取り入れるべく研修し、本校ならではの独自の教育プログラムを作る。
3 SPPへの積極的な取り組みをする		4	開校と同時にSPPの採択を受け、中学生段階から研究活動に取り組み、活動・発表に大きな成果を挙げることができた。	SPPの採択を継続して受けると共に、研究領域を拡大すること。また、科学系のコンクールに応募し、活動の評価を得ることを目標にする。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績	評価	成果と課題	次年度の取組
学校経営	設定された教育目標にそい学校経営計画書が作成され、それに基づいた教育活動を展開する。	教育目標、学校経営計画書、教育活動	新たな教育プログラムを提案すべく開講した中学校として、社会から評価を受ける学校づくりを目指す。		4	設定された教育目標に沿った学校経営計画書を作成し、社会から評価を受ける学校づくりを目指した。学校説明会等で実情を公開し、入学者が募集定員を上回ったことは、社会から評価を受けたものと思われる。	社会から見てわかりやすい教育目標を、より具体的な形で示し、誰からも評価されやすい教育プログラムを考案する。
教育課程・学習指導	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。	教育課程、学習目標・計画・指導、課題実施、学習状況把握	学習プログラムの質的向上を図ると共に、6ヶ年一貫教育プログラムの研究・開発を行うことで、先進校に優る中高一貫教育校づくりを目指す。		4	公立中学校を上回る授業時間数を確保し、丁寧な学習活動を展開できた。また、本校独自の教育プログラムやICTの分野でのティーチングソッドを展開し、先進の中高一貫教育校にない教育プログラムを実行した。	6か年一貫教育プログラムの研究・開発を深化させるよう、中高連携教育推進委員会での検討を活性化化する。
生徒指導	健全な高校生活をおくられるような生徒への啓発活動を行い、個々の生徒へのサポート体制を家庭との協力のもと確立し、生徒理解に努める。また自立した生徒の育成のための支援をする。	生徒への啓発活動、家庭との連携、事前・事後指導体制、人間教育、生徒理解、基本的な生活習慣の確立、自立した生徒の諸活動	日常の教育活動において、集団生活を通じて人間としての生き方を学ぶ指導を展開する。		4	一人ひとりの生徒の状況をスタッフ間で共有し、個別のサポート体制を実践し、家庭との協力のもとに、生徒の自立を支援した。	多感な時期を迎える生徒たちの心理的事項を教職員が的確にとらえ、適切な対応をする体制づくりを心掛ける。
進路指導	学校の方針に基づいた進路指導を展開し、個々の生徒の進路希望に即した緻密な指導を実行する。また、本校独自のキャリア教育を実施する。	学校の方針に基づく進路指導、生徒への情報提供、個々の生徒への対応、	SKS(静北サイエンス)やSPP(サイエンス・バーチナーシップ・プロジェクト)の活動を通じ、将来の自分の姿をイメージできる教育活動を展開する。		4	SKSやSPPの活動を積極的に展開することで、様々な分野でのキャリア教育を実施したものの、全員の生徒が将来の自分の姿をイメージさせるまでにはいたらなかった。	高校生徒の交流や外部の協力機関との連携を増やすことで、高等学校進学と、その後の進路について、将来の自分の姿をイメージできる教育活動を展開する。

安全管理	日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険個所の定期的な点検、スクールバスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる。	防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行	防災意識の継続的啓発活動の実施と安全管理に関しての教職員の意識を高める。加えて、教職員の危機管理に対する意識も強める。		3	校内の危険個所の定期的な点検、スクールバスの安全運行が行われた。しかし、防災ヘルメットの不備があったり、教職員の危機管理に対する意識啓発が求められるレベルを下回った。	安否確認システムの的確な運用をし、通学路の広い生徒たちの、登下校時及び災害時の生徒の状況把握を確実にする。
保健管理	生徒の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療勧告を確実に行う。また部活動の活性化を図る。	検診計画、健康管理指導、運動部・文化部の活性化	治療勧告が出た生徒は、確実に直させる指導を徹底する。また、運動部・文化部に成果を評価される活動をする。		4	生徒の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療勧告を確実に行った。また、運動部においては評価される成績をおさめることができた。	運動部・文化部共にさらに成果が評価されるようにバックアップ体制を作り、生徒たちの心身発達の一助となるような活動を展開する。
特別支援教育	「知・徳・体」のバランスのとれた力(キー・コンピテンシー)の育成をすべく教育プログラムを展開する。	CASE、言語技術教育、SKS、キャリアデザイン教育プログラムの展開	本校独自の教育プログラムを展開し、価値観の高い教育を展開する学校としての評価を受ける。		4	本校独自の4つの教育プログラムは順調に遂行することができ、その成果は確実に上がっていると判断できる。また、外部からも注目されるプログラムとしての位置づけをすることができた。	各プログラムにおける効果測定に関し、成果が上がっていることが確実にわかるような評価方法を検討することが必要。
組織運営	組織的な校務分掌体制を整え、規律をもって教職員が勤務を全うする。また計画的な予算編成を中長期的な観点を考え行い、日常の経理業務を正しく管理する。加えて個人情報に関する管理、公文書管理を適切に行なう。さらに保護者・地域と連携した活動を展開する。	効果的な学校運営体制の確立、組織的な校務分掌体制、規律正しい勤務体制、連携した危機管理体制、計画的な予算執行、中長期計画の編成及び遂行、経理業務の管理、個人情報保護、公文書の管理、情報収集体制の確立と効果的な活用	開講したばかりの学校であるので組織体制を整え、円滑な組織運営ができるようにする。また、些細なことであっても報告・連絡・相談をしていくことで、情報の共有化を行い風通しの良い組織づくりをしていく。経理業務に関しては、計画に基づき予算計画を編成する。また、コンプライアンスが求められる時代の中の学校として、情報の管理意識、教職員の規範意識についても、啓発活動をしていく。		4	円滑な組織運営ができるように、報告・連絡・相談を確実に行う教職員の意識により、情報の共有化が行われ、風通しの良い組織を構築できた。また、コンプライアンスが求められる時代の中の学校として、情報の管理意識、教職員の規範意識が持たれた。	中学校の完成年度に向けて、学校運営体制の確立やより組織的な校務分掌体制の整備をしていくことが求められる。また、高校とも連携した生徒を育てていくための効率性を高めた教育プログラムを提示する。
研修	学校の教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。	計画的な研修体制の確立、郊外研修への参加、研修報告会の実施	CASE、言語技術教育などの研修に加え、ICT教育における情報発信ができるよう研修を進めていく。		4	ICT教育に関する研修に関しては、定期的に行うことができた。それにより、常勤のスタッフに関しては、一定のティーチングスキルを身につけることができた。また定例会議(運営・職員会議、学年部会、教科担当者会等)を確実にを行い、担当者間の情報の共有化は図られた。	CASEや言語技術などに関する校内での研修を企画し、中学校関係教職員の特色あるプログラムについての意識の共有化を図る。
保護者、地域住民との連携	学校を支えてくれる保護者の会や外部団体との連携を強化し、学校運営を側面から支援してくれる組織の意見を受け入れながら、更なる本校の発展を目指す。	保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼	保護者の会との定例会がルーチンで終わることなく、積極的な意見交換の場として発展させていく。また、SKS活動やSPP活動を通して、地域から評価される学校作りをする。		4	学校行事の中で、学期に一度は授業参観会・学級懇談会を実施し、加えて学期末には確実に三者面談を実施することで、保護者との連携強化をはかった。SKSやSPP活動に関しては、評価される結果を得られた。	高校との保護者の会との関係を、完成年度までに検討し、高校と中学校の保護者会の位置づけを検討する。
施設設備	施設設備の美化と定期的な点検を確実にし、安全管理に努め、生徒たちにしっかりと学習環境を整備する。	効果的な施設利用と環境美化、施設・設備の点検、学習環境の整備、図書館の活用	アクティブボードやプラズマディスプレイといった、これからの教育で必要となる機器を積極的に活用し、生徒に対する教育効果を上げていく。		4	アクティブボードやプラズマディスプレイを、授業のみならず日常の生徒の学校生活の中で多用し、生徒の教育活動に一定の効果が上がった。	朝読書の実践を行ってきたが、学級図書や図書館を積極的に活用し、活字離れが進む生徒たちに、活字に慣らせる教育環境を整備をする。
総合評価					3.9		